

「地域力再生コラボ博覧会」で

活動を実施して楽しかったこと、盛り上がったこと、感想など

(博覧会参加のアンケートより)

- ・銚杉塾の部会活動、全体的な諸活動をみていて、新塾員加入による活性化もあるが、23名が活気・元気に取り組んでいる状況が実感できる。「銚杉塾」の存在感が徐々に感じられるようになった(今まで見られなかったこと)。「コケ盆栽づくり」がきっかけで、いろいろな活動場面を提供してもらった。そのことを通じて次への新展開に発展しつつある。「コケ盆栽づくり」のさらなる展開の目があるので、塾活動の基本課題の一つ、産業文化おこし、観光の観点からこれを「ウリ」にして取り組みたい。
- ・会社では味わえない人とのつながりや、ネットワークができた。
- ・区として初めての大会だったけど、青年会、婦人会、敬老会、農家組合、体振など各団体が実行委員会を組織して、約8ヶ月にわたり会議を重ねて取り組んだ。イベント内で、白山神社参道に万灯籠1300基を区民110世帯が作成して参加。夕方5時に点灯した。見事に美しく幻想的で感動を呼び好評を得た。
- ・コラボ博覧会の説明会に参加して初めてこの企画を考えた。地域の有力団体に協力を呼びかけて、多数のボランティアが協力してくれた。まずまずの成功でした。フルカラーのチラシ2000枚要所に配付して集客に努めたこともあり、大勢の人にみかのはらを知ってもらえた。そのうえ地産の野菜をたっぷり使った芋煮会では、「ウマイ」「オイシイ」とご好評をちょうだいし、主催者として大満足でした。
- ・参加活動を区民にも広報紙で報告。これに触発されて、地元小学生が「ふるさと案内」活動グループの協力で、大井手用水路を実際に歩く歴史ウォーキングや、大井手用水の最上流の龍王岩からサイフォンや隋道を現地見学する歴史学習などの実施につながった。
- ・お茶をテーマにした活動として、広範囲からの参加があり、和東のアピール度は高かったと感じています。同志社大学や奈良女子大・NPO法人NICEなど、町外の協力を広く得られたことも盛り上がりの要因であった。
- ・「2008むら活き活きまつり」で交付金支援各団体の紹介パネルを展示したが、団体間の交流を生むまでには至らなかった。来場者への報告の機会には少なからずなったと思う。
- ・里山をフィールドとする体験型WSには、参加型の食事は必須だと思った。上げ膳、据え膳でなく参加者自らが自らの手で収穫し、調理することが好評であった。参加者が寝食を共にすると、参加者、スタッフ間の連帯意識が強まり、リピート率が高くなる。
- ・11月2日に開催した「今福げんき村・ふれあい滝祭り」は、事前のコラボ博覧会でのPR効果やテレビ放映等の影響もあって、遠く広島県や滋賀県からの参加者も含めて、370人もの人々が参加し大盛況、大好評であった。しかし、270人分しか準備できないキノコ汁や、コシヒカリのおにぎりが品切れになって、参加者に迷惑をかけた面もあり、次回開催では内容を検討する必要がある。
- ・伊根町の舟屋内部は個人のプライベートな部分であり、基本的に公開していません。多数の観光客が訪れる舟屋ですので、1年に1回だけ有志を募り公開している。今回の公開にお

いて滅多に見ることのできない舟屋の内部や、実際の漁船を利用して海からの舟屋の建ち並びに、参加者は大変感銘を受けられていた。このように喜んでいただいていたことに嬉しかった。

・初めての参加者6人を含む約30名の参加があった。今回のテーマは「まゆで作る秋の景色」と題して日本の秋を代表する案山子がモチーフで、細かい作業にもできあがりを楽しみで、皆さん製作にがんばっていました。参加された方が楽しく作ってくださり、喜んでいただいた。

・森貫様のお話はとてもやさしく、人として生きることの大切さや、清水焼の歴史、年末の一字の関わりを笑いを交えてお話いただいた。第1回目からこれだけの遠路からお集まりいただき、紅葉もとても美しく楽しい会になった。

・うまく広報ができず、参加者は定員に満たなかったものの、アンケートの満足度は非常に高く、次回以降も開催を希望する声が多数あった。これまでの会の活動であった薪割、薪炭料理、調査結果などが生かされ、非常に手ごたえを感じた結果であった。特に1泊2日のコースでは、普段都会に住む参加者自身が薪割や料理、五右衛門風呂、里山の散策などを美山町で行ったところ、どの内容も感動を呼んでいた。

・第2回竹林コンサートで、身障者が参加できるようにバリアフリーの設備をするためのカンパを募った。会場の一般参加者から予想以上のカンパがありメンバーをカブけた。

・行政、小中学校、大学、関係団体、企業など多くの団体と環境の都づくり会議が共同で行い、これまでで最多の参加者を集めたイベントとなった。小中学生の発表や出展作品は、その内容が大変優れており、参加した市民に感動を与えた。これらの結果により、当初目標とした「子どもたちに地球環境を考える機会を提供し、子どもたちから大人が環境問題を学ぶ機会とする」ことが十分達成できた。

・菜の花畑づくりが2年目だったので、1年目に花が咲いた時の写真を見せると、みなさん目標が見えたようでやる気を出されたようでした。

・特に12月の環境教室は、いろいろな方楽しんでいただけたと思います。「刺し網漁」の見学では、魚が網に鈴なりに！その後、みんなで魚を外して、ガレリア亀岡では鮎の塩焼きも。かなり楽しんでいただけたと思っています。

・難しくなりがちな環境のお話にも、落語を取り入れたトークにより来場者から笑いがあり楽しい時間を過ごせた。生活の中の「もったいない」をテーマに、何がもったいないのか、会場のみなさんとディスカッションを行った。「もったいない」を見直し、それぞれが自覚を持つことが大切であるとくった。

・放置竹林の竹林整備を定着させるには、竹の魅力の再発見だという観点から、竹と柿渋のコラボで抹茶茶碗づくりを試みました。しかし、自然の物との付き合いは、じっくりと時間を掛けねばならないと言うことに気づき、現在の生活の見直しのきっかけになりました。おかげで、みんなそれぞれに竹の魅力の再発見をしました。お正月には、門松を作ったり、お箸を作ったりと、独自で竹林に竹を取りに行かれた方が多かったのは感激しました。

・11/1開催の「源氏物語に遊ぶ(新風館)」に参加。当団体が提案する「マイ湯のみ運動」をPRするため、団体メンバーがモデルになり、ステージで湯のみ入れを披露する機会を与えて

いただいた。湯のみを持ち歩くための湯のみ入れには、西陣意匠紋紙工業共同組合さんとのコラボで、新たに西陣織バージョンのものが生まれる。さらに、女性陣はNPO法人あいらぶKYOTOさんの着物を着用し、京都ブランドの“宇治茶”の主産地として、京都文化との接点が増えることは非常に有意義でした。(5月には府庁NPOセンターで清水焼の団体とコラボもしている)その後開催された「京都環境フェスティバル」や「エコプロダクツ(東京)」の環境イベントに参加した際、コラボ博覧会での様子をパネルで紹介したり、西陣織などの湯のみ入れの展示を行い、「環境」と「伝統(京都)」、「食育」などの組み合わせの珍しさもあり非常に高い評価をいただきました。村外での活動を通じて村内での期待も高まっており、今後も積極的に取り組みたいと考えます。ちなみに、新風館ステージでの様子は、村内のイベントや環境イベントで映像を流し、とても楽しんでいただきました。

・朝日新聞とらいあんぐるあさひで源氏物語2000円ツアーを取り上げてくれた。他社も含めツアーに商店街(堀川商店街、三条会商店街)を組み入れ昼食会でお買い物してもらった。延べ1000人です。アサヒテレビでも取材あり。1/29の夕方のニュースゆうで放映された。

・新風館でもイベントに飛び入りで参加し、他のNPOの皆様とお知り合いになれたことが大変有意義でした。

・参加者自身が自分の名刺を作成することをメインテーマとして参加しましたが作成することのできた人や、クラブの補助で完成した人を含め、PCの身近な活用事例としてクラブ活動に参加したいと申し出た人も数人あり、クラブ員として喜んでいます。作品を展示することにより本人や観客との話し合いが生まれ今までとは違う交流場面となった。

・参加者自身が自分の名刺を作成することをメインテーマとして参加しましたが作成することのできた人や、クラブの補助で完成した人を含め、PCの身近な活用事例としてクラブ活動に参加したいと申し出た人も数人あり、クラブ員として喜んでいます。作品を展示することにより本人や観客との話し合いが生まれ 今までとは違う交流場面となった。

・10月～12月、1回/月、3回の事業であったが、大学生2名が卒論テーマとして、“地域SNS”を取上げたいとの事で、講習会を見学・懇談の機会を持った。

・ボランティアの名の元に人が集まるか不安でしたが、約80人くらいの方が参加していただきいい事業となった。

・地域力再生においてのものづくりは、大変にしんどくて忙しいですが、毎回終わった後の達成感が幸せであり、「良かったよ」「美味しかったよ」と言葉をいただけたならなお一層充実です。

・参加者間の交流が「もちつき」や「丸太きり」等の参加型プログラムで深まったと思う。

・これまで市内に入れる新聞折り込みが広報手段であったが、コラボ博覧会に参加したことで無料で府内全域に情報発信できることを知った。以前は市内にだけ向いていた実行委員たちの意識も少し外に向けて広がってきたように思う。

・イベント参加者の感想などから→新鮮な魚は魚臭くないということを初体験(包丁教室にて)。・サツマイモの苗植え、収穫、ヤキイモ等で農作業の苦勞、楽しさがわかりました。焚き火で楽しさ倍増。・スタッフとの夕食会で新鮮な食材などに感嘆

・会議等で参加した旧府庁舎の歴史の香りに惹かれて、パートナーシップセンター会議室を着付け教室にお借りしましたが、京都市民の参加者の皆さんが、旧府庁舎の存在も知らず、何より京都府庁そのものが市民には数居の高い位置にあることを知りました。皆様異口同音に「こんな良いとこ知らなかったわ！私達が知らないのに遠い先生が良く知ってるね 府庁には我々用が無いから・・・」行政側はもっと府民に親しむこと近づくことが大事です、我々NPOは、関心の無い人に、ボランティア精神に則つての活動の啓蒙の必要性をつくづく感じました。

・住んでいる京北で、遠くからでも田舎へ人はやってくることを実感できる機会でした。この試みから、京北で「作る」以外に「展示・販売」の常設の場を考え、すでに実行している人もできたことはうれしい。

・今年のイベントは独居老人の方に元気になってもらう集いに参加できたことだった。およそ100人の方々と童謡、唱歌を大合唱して一つになれたときは感激した。涙を流してられる方もおられた。

・第1回が終わって第2回の企画案から、経験のある実行委員会のメンバーが準備を始めて数ヶ月、ホームページでの呼びかけで参加、応募企業の方々の参加で実行委員会を全体及び各部門別で開き、副実行委員長を中心に実行に向けて動いてきました。前日当日合わせてボランティアの皆さんは180名以上になり、当日会場への参加入場者は3000名弱の方々に、いろいろな出会いがありました。全フロアからステージでのイベント分から、参加へ一層の盛り上がりがあり、子ども広場は的を得た企画で、子供たちがあふれて賑わっていました。(略)このように準備の集まりからイベント当日の最後まで、年齢差を超えたボランティアの方々が力を出していただき、「ともに」の心で成功した。

・ベビースリング(抱っこひも)の使い方の講習会で、ご夫婦の参加もありました。新しい家族が増えこれから一緒に子育てをしていこうという気持ちがよくわかりました。パパがぎこちなくスリングをつけてお子さんを抱っこされ、ママが横で見守ってられる姿はとても微笑ましかったです。

・室内遊びと外あそびが自由にでき、大人もくつろげるひろばです。特に砂遊びは人気で、水も使って遊べるので子どもたちはいつまでも遊んでいたい様子です。子どもたちが遊びに夢中になっている間、お母さんたちはコーヒーや紅茶を飲みながらほっと一息つかれ、「家ではこんな時間ないからうれしいわ～」と喜ばれています。

・ホームページに掲載していただくことが、「コラボ博覧会に参加している」ことなのかもよくわかりません。

・町内に留まらず、けいはんな学研都市内の他市、府内の他市町等、町外からの参加者を募ることができた。・クラシックではあるが、子供にも馴染みのある曲目を中心にプログラムを構成したことで、親子連れの参加者を募ることができた。・教育関連機関やNPO法人等、各種の地域団体と協働し運営することができた。

・博覧会の意味はよくわからなかったが、すてきに仕上げていただいたホームページ上の資料がうれしくて、プリントアウトして例会に持って行って、回覧して楽しみました。

・「参加して、今までの活動に確信が持てた」「行政、企業との連携について必要性和NPOが

ら働きかけていくことの大切さを感じた」などたくさん声をいただきました。

また、子どもの「発達」を保証するために、さまざまな人や団体が積極的に連携をはかり地域ぐるみ・社会全体で具体的な「場づくり」「時間の確保」「サポートにかかわる人材の育成」が必要という認識もあらためて広がったようです。

講師やパネラー、コーディネーターの皆さんからも「楽しかった」「こちらが元気をもらった」とお礼をいただき、今後につなげていきたいと思っています。

また、実施にご協力いただいた団体の活動紹介(画像データ)をつなげてイベント開始時に投影したのですが、府の各地で子どもたちがいきいき活動する様子を多くの方にご覧いただき、盛り上がりました。

- ・定期的に行っているあわさいコンサートや料理教室では、毎回初めて参加していただく方がいて、新しい人々の交流が生まれたこと。・食への関心が深まっていることを開催するたびに感じ、参加者の皆様が「薬膳」について熱心に学んでいただけたこと。

- ・博覧会活動は参加者がなかったが、地元中学校でのそば打ちが大成功した。

- ・(新風館イベント)府事業に参加してたくさんのコラボができた。ステージの様子は村内イベントで映像で流して楽しんでもらった。

- ・稲刈り作業で、柔らかな田んぼで思うように歩けなかったり、鎌が思うように使えなかったりしたが、大勢での作業は楽しく盛り上がり、話も弾んだ。

- ・イベントの参加者は、東京から鹿児島まで幅の広く、毎月大勢の方に参加していただき、賑わいました。参加者の皆さんは、イベントを通して、上林を古里のように思って、毎月楽しみに来て下さっていました。大阪から参加されていた方が、中上林に3月から移住されることになりました。

- ・料理教室、講座では地元やターンの方が野菜や加工品を自ら販売してくださり、イベントを更に盛り上げていただきました。参加された方の食と体に対する意識が高く、最後のイベントでは参加者からプレゼントを頂いてしまったり、来年度も引き続き参加希望をされる方、又はきりり上林の活動の手伝いを希望される方が現れて嬉しい限りでした。皆さんに喜んでいただけたことが何より有り難く、来年度ももっと喜んでいただける活動をさせていただこうと張り切っています！！

- ・地元米(ひのひかり)を自家製粉し、パン及びクッキーなどの商品が販売できたこと、また、他の団体の方と交流ができ、情報交換ができた。

- ・吉富村フリマに月1回参加できるようになった。吉富村加工所を月2回借りて亀岡名産をめざす「クィールサブレ」を製造ができるようになった

- ・季節限定でしか活動できていませんが、参加させていただき、また新聞にも載せていただいたこと等は大きな宣伝になります。

- ・店は、情報をとにかくできるだけ頻繁に提供することが集客のポイントであるので博覧会チラシにも載せていただいたことはありがたかった。

<博覧会参加の感想 「活動」「アピール」についてのその他欄から>

- ・区民が一体となって活動ができた

- ・今年は広報が遅れたこともあり、博覧会のHPでアピールできたことは少なからず効果があ

ったと思いますが、会場でとったアンケート結果には反映されていませんでした。

- ・コラボの出会いにつながった
- ・京都新聞洛西版、府広報誌、ミニコミ誌など多数掲載された。
- ・博覧会チラシを見ての参加があった。
- ・たぶんアピールできた。関心を持つ人が広がった。
- ・個人的には、他のいろいろな活動を知ることが出来てよかったです。新聞にも掲載していただき、いろいろな人に知ってもらえるいい機会になったと思います。
- ・本年度は、日常活動の目的の一つに作品を展示会に展示することにした為、各自、カレンダー・絵手紙・Tシャツプリント等の作品を持ち寄りに発表会に展示しました。その事により参加意識が強まり 当日には前年の2倍近くの来訪がありました。頂いた博覧会のカラー印刷パンフには一枚ずつ当会のスペースに丸で囲み見やすくし受付で配布しました。おかげで、当方は昼食もままならない状況内に終了しました。成功したと思っています。
- ・コラボ博覧会のチラシを見て参加する人もあった。
- ・今後も続けたい
- ・子育て中の方が対象で広報誌やHPをみる機会がほとんどなかった
- ・従前より進めている町内の地域団体と協働することができた